

# 同窓会だより

編集発行／岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会事務局  
(〒501-0407 岐阜県本巣市仏生寺859-1・TEL (058) 324-1201 FAX (058) 323-0651)

卒業生総数：  
28,101人

本巣中学： 2,571人  
本巣高女： 2,592人  
高校(本巣校舎)： 22,733人  
高校(岐阜校舎)： 205人



同窓会入会式（2月29日）で会長から委嘱状を学年理事代表に



## 松樹に米寿の年輪を刻む

同窓会会长 中島洋晃

母校の沿革を紐解けば、一九二〇（大正九）年二月十二日の旧制本巣中学校設立許可の日から数え、今年は丁度八十八年の星霜を重ね目出度くも米寿を迎えることになります。

一九三四（大正十三年）三月に第一次の本巣高等女学校の卒業式、翌年には本巣中学校の初回の卒業式が挙行され八十四年間を経過し多くの

仲間を輩出した母校の栄光と伝統にあらためて敬意と謝意を表することあります。

平成の教育改革により単位制普通科の岐阜県立本巣松陽高等学校として、平成十六年四月に開校し四カ年

が経過しました。校名の変更に伴い慣れ親しんだ「本巣高等学校同窓会」の名が消え格別の淋しさを感じておられる方や母校に対する愛着度の希薄化を懸念される方など様々な思いを拝聴していることあります。

しかしながら、栄えある母校同窓会の会員総数は、平成十九年度卒業生二七二名の入会をもつて二万八千百一名となり本会の発展を数字の上でも確かめることができます。新校名のもとで卒業生諸氏も壹千名を超え、新生母校の新しい勢いを感じるところであります。

すべての同窓生諸氏が「若き日の心の故郷」である母校に大いなる郷愁を抱きつつ、新生「岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会」の発展と母校の隆盛にさらなるご支援とご指導、ご参加とご協力を賜りますよう念じて挨拶とします。

## 不变の思い

同窓会名誉会長（学校長）  
津谷茂行



「本巣高校」から「本巣松陽高校」に校名が変更になってから四年の歳月が流れました。まだ「松陽」の二字に違和感を感ずるという声を聞きます。関東支部の総会に出席させてもらった時にも夏の同窓会総会の時にもそうした声を直に聞きました。

学校周辺の様子は随分変わったようですが、しかし、本校は他の学校とは違つて、創立以来学校の敷地は移動していません。卒業生には、共通の思い出があると思います。直木賞作家で、昭和十二年卒業の豊田穰さんが、昭和四十四年の創立五十周年に寄稿された文章を引用します。

『広い糸貫河原の手前に桜の並木があり、道路をへだてて校門がある。校門を入れると、右側は運動場ですぐ左に棕櫚などの植え込みがある。植え込みの左側に職員室の玄関があり、その向こうに控室と武道場が見渡せる。大正末期に建てられた木造瓦ぶきの建物で、私はここで人格形成期の五年間を過ごした。』

豊田さんが、この文章を寄せられたころに現在の本館が完成していますが、校舎の配置は大きく変化はしていません。本巣高校の長い歴史を実感させられる文

本部總会・懇親会

出席者二百人を超える！

喜寿学年は四十四人

事務局長 松尾寛美

平成十九年度本巣松陽高等学校同窓会本部総会および懇親会が、今年も「岐阜グランドホテル」ロイヤルホールにおいて八月十一日（土）に行われました。総勢二百十一人の参加を得て年々盛大になりました。今年の当番学年（昭和五十二年卒）の理事の方々は事前に何度も会合を持たれ、出席者を増やす努力をしていただき、同期生は百人を超みました。また、喜寿学年も四十四人と近年にないほど多数の出席者でした。

**総会**は郷和子常任理事（昭和五十年卒）の司会進行で、中島洋晃同窓会会长、津谷茂行名誉会長（学校長）の挨拶に続いて、河瀬治行氏（昭和四十一年卒）を議長に次の議題について協議しました。



場を盛り上げていただいた三味線の演奏

懇親会は十二時十五分から行われ、運営は例年のように当番学年の理事に担当していただきました。司会進行は宇野繁樹さん。

つづいて、喜寿を迎えた中学  
(昭和二十三年卒)と高女(昭和二  
十二年卒)の方々にお祝いの記念品  
が中島会長から授与されました。特  
に今年は多くの方にご出席いただけ  
ましたことを感謝いたします。

記念品は既成のものではなく、才  
リジナルなものがよいとの役員会で  
の意見から、"本巣"の"喜寿の方  
への祝"を入れ込んだ湯飲み茶碗に  
しました。根尾で陶芸体験工房をし  
ておられる宮脇志穂さんに一つ一つ  
手びねりで作つていただいたもので  
す。

○平成十八年度事業・決算報告  
○会計監査報告  
○平成十九年度本部役員  
○平成十九年度事業計画・予算

なお、喜寿を迎えた高女の方たちから「こんな楽しい会に出席できて本当に嬉しかった。半世紀ぶりに昔の仲間と思い出話ができ、娘時代に帰ることができた。」と、とても喜んでいただきました。華やいだ雰囲気で、あつという間の二時間でした。

当番学年の皆さんはその後、同会場で恩師を囲み、さらに一時間ほど同期の仲間だけの交流を深めていました。卒業以来三十年ぶりに顔を合わせた人もいて、懐かしき思いがだされた人も満面に見られ、同級生の良さを感じさせてくれました。

高橋 敏郎（昭和五十三卒）

今回初めて同窓会総会及び懇親会に参加させていただき、本巣松陽高校の歴史を感じました。特に、喜寿学年の方々のお元気な姿又当番学年の皆様の三十年ぶりの再会の喜びが伝わってきました。そして来年度は、自分たちがその喜びを感じることができるのことを、心待ちに思いました。

同窓会総会・懇親会

若曾根隆彦さん（当番学年理事代表）と中島会長の挨拶の後、恩師としてお招きした五名（松野光暢・後藤和典・大野昭義・三輪喜久子・江崎陽子）の先生の紹介。恩師を代表して、大野昭義先生（昭和三十五年卒）の挨拶及び乾杯の発声で会が始まりました。

**今後の本部総会及び懇親会**

を盛り上げていくために、各学年の理事の方々がクラス会などを計画されると、本部の懇親会に合わせて計画していただけすると非常に有り難く思います。クラス会という「横の繋がり」と同窓生という「縦の繫がり」を大事にしていきたいものですが。その折は同窓会事務局（本巣松陽高校内 058-324-1201）までご一報ください。

吉田松陰の言葉である「夢なき者に目標なし、目標なき者に計画なし、計画なき者に行動なし、行動なき者に成果なし、成果なき者に幸せなし」の通り、本巣松陽高校同窓会のため、平成二十年度同窓会総会・懇親会の世話役となる当番学年（昭和五十三年卒）として、皆様の多数のご参加をいただき、楽しく又三十年前にタイムスリップした時間となる様、努力いたしましたのでよろしくお願ひいたします。

懇親会 十二時

平成二十年度本部総会および懇親会は八月九日(土)に行います

\*当番幹事は昭和五十三年三月卒の方々です。

## 関東支部だより

支部長 守屋 保



本部からの3人を囲み、年代別に記念写真

平成十九年度支部総会は四月十五日(日)、東京「アルカディア市ヶ谷」で開催。本部から新着任早々の津谷茂行校長先生、中島新会長、松尾事務局長のお三方をお迎えし、会員八十四名の参加をえて総勢八十七人で盛大に行いました。最年長の参加者は、昭和十六年卒の高橋秀道さんで、最年少は本巣松陽高校平成十九年の卒業生・不破由梨佳、森田悠一郎の二君でした。

## 関西支部だより

副支部長 粟野 憲彰

平成十九年四月八日(日)、支部総会と懇親会を大阪駅前の第三ビルにある日本料理「河久」で開催しました。本部から中島洋晃会長、加納芳樹教頭、松尾寛美事務局長の三人にお越しいただき、会員二十余名の参加を得て三年ぶりに行いました。

参加者は故郷や母校の現況を聞きながら、学生時代の懐かしい思い出が甦り、それぞれに語らいの時間を過ごされていました。開催するまでは大変でしたが、皆さんのが楽しそうな姿を見ると、本当に開催できて良かったと思っています。

次回の幹事役も新たに決定しましたので、より多くの出席が期待でき

副会長では来賓祝辞に次いで、生方瀬島行雄氏(昭三十三年卒)が「ペットの効用と問題点」のテーマで特別講演。氏はまず団塊世代の趣味の傾向を示した後、犬、猫を飼育する理由をあげ、「ペットの効用」として癒される、コミュニケーションなど

の効用を説明。また問題点として飼い主のマナー、飼育放棄など示し「日本はペットを飼うにはまだ発展途上国」と結んだ。

懇親会は、山田幸雄氏(昭二十二年卒)のリーダーで、十九年卒の森田君が本巣松陽高校の新校歌を披露、全員で本巣松陽の校歌を合唱、



3年ぶりの開催に参集した面々

そうです。

年卒)の乾杯の音頭で開始、初参加者春日春子さんはじめ十名の紹介、大野清一氏(昭和三十二年卒)のギター演奏でムードを盛り上げた。恒例の「お楽しみゲーム・ふる里ビンゴ」はふる里の方言「おーきによう」をはじめ、懐かしい「とろくさい」、「どばかな」などの言葉を思いだし、

ふる里をしのんだ。

最後は校歌、国井氏(昭和二十九年卒)のリーダーで、十九年卒の森田君が本巣松陽高校の新校歌を披露、全員で本巣松陽の校歌を合唱、再会を誓い散会した。

「財団法人加藤記念奨学会」の設立三十周年を記念し、平成十九年十一月十四日、本校体育館において宇梶剛士さんの講演会が行われました。この奨学会は旧制本巣中学を昭和三年に卒業され、川崎重工株式会社の副社長になられた、故加藤利一氏が私財を投じ、昭和五十二年に創設されたものです。

宇梶さんは、高校時代甲子園を目指し野球に打ち込んでいたこと。退学後暴走族のリーダーとなり、暴力事件で少年院生活を送つたこと。さらに俳優を志すきっかけとなつたことなど、自らの体験から「人にはそれぞれの人生がある。人生の主役は自分である」と、誇りを持って精一杯生きていくことの大切さを語つ

**俳優 宇梶剛士さんが講演**  
～加藤記念奨学会30周年を記念して～



